イスラエルのネツァリム回廊建設：戦後処理の一環か

ラヴデイ・モリス、エヴァン・ヒル、サミュエル・グラナドス、ハゼム・バルーシャ著、脇浜義明訳、田中一弘補訳　＊脚注はすべて訳注
出典：The Post Most（ワシントン・ポストの無料のニュースレター電子メール）
２０２４年５月１７日

衛生映像やその他の視角的証拠によれば、イスラエル軍はガザ回廊を二分する戦略的回廊を要塞化している ― 複数の軍事基地建設、民間施設の接収、民家の打ち壊しと住民の強制追い出しを行っている。軍事アナリストやイスラエルの専門家によると、この取り組みは、ガザ地区を再形成し、イスラエル軍のプレゼンスを確立するための大規模プロジェクトの一環だという。

ネツァリム回廊はガザ市のちょうど南にある４マイルの長さの道路で、イスラエル国境からガザを横切って地中海に繋がっている。ハマスは停戦交渉の中でイスラエル軍のネツァリム回廊からの撤退を主要条件として要求している[1]。

過去二か月間停戦に関する協議中でも、イスラエル軍はネツァリム回廊建設・強化を続けた。ワシントン・ポストが衛星画像を観察・調査したところ、この３月以降にイスラエル軍はネツァリム回廊に前線基地３つを設営した。これらはイスラエル軍の戦後計画に関して手掛かりとなる。回廊は一方の端の地中海では同盟国米国の軍隊が建設している海からの支援物資搬入のための７エーカーの浮桟橋と繋がっている。

イスラエルは２００５年のシャロン首相によるガザ撤退までの３８年間ガザを占領してきたが、ガザを恒久的に再占領する気はないと言っている。しかし、この数か月間、軍が道路や前哨基地や緩衝地帯を建設してきたことは、政府の戦後計画が曖昧でぐらついている中で、軍部の役割が大きくなっていることを物語っている。ネタニヤフ首相は「明日」（the day after ）の具体的計画をほとんど示めさず　― これが将軍たちや米政府の不満の種になっている[2] ― ただガザ回廊を「無期限に」保安管理を続けると繰り返すだけであった。彼は今週のポッドキャストのインタビューで、イスラエル軍が今後も外からガザのパレスチナ人を攻撃することに加えて、ハマスを殲滅し武装解除するために軍がガザ内部で活動することが必要であると語った。

ネツァリム回廊支配は、交渉におけるイスラエル側の力を強めることに加えて、イスラエル軍に有益な柔軟性を与え、ガザの何処へでも即時に軍隊を展開できるようになる。これはイスラエル国防軍に援助の流れと避難したパレスチナ人の移動に対する統制を維持する能力を与え、ハマス戦士の再結集を防ぐうえで必要なことである。

ヘブライ大学の地理データの専門家であるアディ・ベン＝ヌンによれば、ネツァリム回廊道路の両側に少なくとも５００ヤードの「緩衝地帯」を作る事業と思える作業の中で、少なくとも７５０棟の住宅や建物が破壊された。また、米軍の浮桟橋建設する地域でも２５０棟の住宅が破壊された。

イスラエル国防軍（IDF）はネツァリム回廊周辺の住民の建物の撤去については、戦争中の作戦に関する質問には答えられないとして、コメントを拒否している。しかし、軍事専門

---

[1] パレスチナ・フォーラムのイスラエル研究者のワリッド・ハバスは、イスラエルはネツァリム回廊でガザを北と南に分断して、ハマスや抵抗パレスチナ人を南に閉じ込め、北には援助物資を提供し、復興を支援して、西岸地区のＰＡに似たイスラエルに協力するような地域豪族に支配させる計画だと述べている。

[2] イスラエル兵士の親族もそれに不満を表明し、テルアビブで首相批判デモを行った。

家は、それはガザの大規模で長期的な地理的再編成の一環で、ガザを支配し易いカントン（小郡）にするという過去のイスラエルの計画を思い出させるものだと言っている。「我々に必要なのは、ガザのいずこにおいても IDF が迅速に自由に行動できることである」と、元 IDF ガザ師団の副司令官の予備役准将のアミール・アヴィヴィが言っている。

「ネツァリム基地へようこそ」

ネツァリム回廊はかつて海岸線上にあった入植地の名前にちなんで名付けられた　―この入植地はガザを分割してイスラエルの治安管理下に置いて支配する当時の首相アリエル・シャロンの「５本の指」戦略の２本目の指であった。その戦略計画は部分的に実地されただけで、かつて入植地の擁護者であったシャロンが２００５年にガザ撤退を命じて、終わってしまった[3]。

「イスラエル軍がガザに戻って、新しい回廊を建設するのは驚くことではない。何しろ、ガザは軍事目的にとって最も適切な地形だからだ」と、民主主義防衛財団の会員で元 IDF スポークスマンだったジョナサン・コンリカスが言った。昨年１０月７日ハマスの奇襲に対応してイスラエル軍がガザに侵攻したとき、ネツァリム軸線はガザを二分する目的のために最初の標的であった。

ガザ侵入軍は１１月６日までに、地中海に通ずる略式の曲がりくねった道路を完成させ、ガザ海岸沿いに南北に走る幹線道路アル・ラシッド道路を軍用車両が走行できるようにした。２～３月にイスラエル軍は南に向かう数百メートルの直線道路を建設、ネツァリム回廊を正式に完成した。海岸に接する最後の道路区間は３月５～９日に整備した。これらの工事進展は衛星画像で確認したものである。

この道路建設のおかげでイスラエル軍用車両はガザの地区の一方の端から他方の端までわずか７分で移動できるようになり、兵隊が北部や中部に妨害受けずに迅速に移動できるようになったと、ＩＤＦは言っている。最近のＩＤＦのガザ北部のゼイトゥーン攻撃のときはこの道路が作戦基地に使われたと、あるイスラエル軍将校が、ＩＤＦプロトコルに準じて匿名で語った。

ネツァリム回廊はガザを南北に走る二つの幹線道路 ― 中央を走るサラー・アル・ディン道路と海岸沿いを走るアル・ラシッド道路 ― を二分している。３月上旬にＩＤＦは両地点で前線作戦基地を作り始めた。この基地建設は、将来のある時点で、パレスチナ民間人を軍の監視下で帰還させる準備と見ることができる。両基地の隣り、北へ続く道路上に、中央複合施設につながった何か「人や物を取り入れる長い廊下」のようにみえる建物があると、警備会社ジェーンズの衛星画像担当研究員のショーン・オコナーが言っている。

米国政府はラファや他の南部地域へ逃れた避難民には北部に帰還することを許すべきだと言った。国連の専門家は、避難民の帰還を許さないことは民族の「強制移送」となり、人道に反する犯罪であると言った。

先月、戦闘が小康状態にあった頃、避難家族が北部へ帰れるという噂が流れていたので、避難民のジュマア・アブ・ハシラ（３７）がネツァリム回廊に近づくと、イスラエル兵が空に向かって警告発砲したと語った。彼はその場で拘禁され、目隠しをされ、銃の台尻で殴打され、暴力を含む尋問を８時間にわたってされたと、彼は語った。

IDF は、ガザ住民（武装テロリストも含めて）がネツァリム回廊に近づくと「警告発砲」することがあることを認めたが、アブ・ハシラの拘禁や暴力尋問に関する質問には答

---

[3] ガザを捨てて、イスラエルがユダヤ・サマリアの地と呼ぶ西岸地区への入植活動を強化した。

えなかった。
　アル・ラシッドの前哨基地の特徴は、数か所に監視ポイントがあり、避難民通過を管理する歩哨詰め所になるかもしれないと、衛星画像で軍の動きを追跡する研究プロジェクトである「コンテスティッド・グラウンド」のオープンソース研究者のウィリアム・グッドハインドが言っている。アル・ラッシドの前線作戦基地は、３月中旬に建設された桟橋の隣りに位置する。この桟橋は慈善団体「ワールド・セントラル・キッチン」が配布する支援物資を陸揚げする場所である。米軍の浮桟橋も同じ場所にある。だから、IDF 部隊が救援物資海上輸送を管理する姿勢が明らかに見える。
　コンクリート外壁には青色文字で「ネツァリム基地へようこそ」という落書きがある。我々ワシントン・ポストが写真から位置情報を入手し、その写真をイスラエル人ジャーナリストが X にポストした。彼の弟がスプレーで落書きしたものだと彼は言う。夜でも、明るい投光器に照らされるから数マイル離れていても見えるという。
　「ガザで灯りがある場所はそこだけです」と、基地の南に住んでいる２９歳の女性が言った。彼女は身の安全のために、電話インタビューで匿名という条件で話してくれた。「兵隊たちはしょっちゅう何処かの地区へ行って帰ってきます。軍隊はネツァリムに留まるように見えます。」
　米軍建設の桟橋と IDF のネツァリム回廊が繋がっているという事実は、「IDF がすべての救援物資の流れを管理下に置こうとしていることを示している」と、ル・ベック・インターナショナルの情報部長のマイケル・ホロウィッツが言っている。さらに、IDF 当局も、回廊は「ゲイト９６」とも繋がっていると言った。「ゲイト９６」はガザ中部とイスラエル国境の接点に開かれた、救援トラックによる搬送のための新アクセス・ポイントである。つまり、海上輸送に加え、陸路搬送も管理下に置く意図が見られる。
　しかし、国境なき医師団の副メディカル・コーディネーターのムハンマド・アブ・ムハイシブは、救援トラックがネツァリム回廊を渡るとき、「３～４時間待たされ、結局追い返されるか、場合によっては逮捕される」と語った。現実にはイスラエルが繰り返し北部への救援物資搬入を妨害するため、国連は飢餓の拡大を警告している ― 世界食糧計画（WFP）の責任者は「本格的飢饉」と表現している。
　先月サラー・アル・ディンの前哨基地を訪れたイスラエル軍ラジオの記者ドロン・カドシュが、新しく作られた前哨基地にはレーダーや観測機器が設置されていると言った。彼が撮った写真には、青色と白色の移動トイレ、発電機、高い赤と白の数本の通信塔が映っていた。彼が最初に訪れた昨年の１０月には、ネツァリム回廊はまだ戦車が通る道で「何もなかった」のに、今では宿泊施設、シャワー設備、移動式食堂、頑丈なシェルターが整っていると、彼は言った。また、ＩＤＦが付近の民間施設を徴発して前哨基地に模様替えしたようである。その一つは、イスラエル国境から１マイルほど離れたところのジュホール・アド・ディク村の学校である。衛生画像の観察によると、３月１５～３０日に前哨基地にされた学校の近くに防衛用の土の堤防が創られた。村の他の部分はすべえ破壊されていた。
　ジュホール・アド・ディク村の農民アブデル・ナセル（４５）は、村が破壊される前の１０月に、妻と子どもを連れて脱出した。「以前はここは私たち家族にとって安息の地でした・・・みんなで数え切れないほど美しい時間を過ごしたところでした」と話した。「２週間ほど前に、かつて隣人だった人から、ジュホール・アド・ディク村がすっかり破壊さえ、人々の畑が全部ブルドーザーで潰されてしまったと聞いた」と彼は言ったが、そのニュースを妻に話すことがまだできないと付言した。
　イスラエル軍は、かつて癌患者治療専門のトルコ・パレスチナ友愛病院を接収して、作戦基地として利用しているようである。この病院は、１１月の第１週目に、近くが爆撃さ

れたことと燃料不足のために閉鎖せざるを得なくなり、数千人の癌患者が治療の機会がなく放置されている。１１月下旬には病院の周囲にも土の堤防が出現した。
２月に、一人のイスラエル兵が土木機械で病院の大部分を取り壊す光景を撮影した。５月８日にパレスチナ人ジャーナリストのユーニス・ティラウィがオンライン発信し我々ポストが位置情報を提供した映像では、ＩＤＦが病院を狙撃兵屯所に使っていた。
すでに３月までにイスラエル軍は、温室施設を破壊し、イスラエル大学や高等裁判所がある司法宮殿を爆破するなど、病院周囲の数百エーカーを整地していた。
「このように広範囲にわたる民間施設を破壊した説得力のある理由を、イスラエルは提供していない」と、５月１４日に国連の人権高等弁務官フォルカー・チュルクが言った。全部で、回廊と桟橋周辺でイスラエル軍に没収されて整地された土地は少なくとも４平方マイル、２５００エーカーを少し超える広さであると、ヘブライ大学のベン・ヌンが計算している。しかし、建物や農地への被害はさらに大きい。彼によると、「これまでにすべてが取り壊された。完全なる破壊だ。」

ネツァリム回廊の活用

イスラエルは短期間経過すればネツァリム回廊から撤退するかもしれないという意向を表明しことがある。先週ハマスが受け入れたエジプトとカタールの停戦案は、ポストが入手し停戦交渉に近い人物が確認した文書によれば、この地域から軍が徐々に引き揚げることが記されている。徐々にとはいえ、22 日目にはイスラエル軍はネツァリム回廊地域から完全撤退し、「軍事基地や施設をすべて解体しなければならない」と、仲介国提案が述べている。しかし、ホロウィッツが言うのには、イスラエル軍は停戦中に数か月間は撤退しなければならないが、その後は再びネツァリム回廊に戻ってよいという約束を貰った可能性が高いようである。複数の前哨基地、道路、大規模な整地は「ネツァリム回廊が恒久的なものになることを表している」と、ホロウィッツは言った。
軍事アナリストたちも、戦後ガザの統治に関する他の計画がないので、軍隊による長期占領の可能性が高いと言っている。イスラエルはガザをパレスチナ自治政府（PA）の統治に戻せという米国の提案に反対しているし、アラブ治安部隊がガザに入るという発想には地域的賛同はなさそうである。
イスラエル軍の長期的ガザ駐留は、ガザ回廊がすでにイスラエル軍の攻撃という雷を引き寄せる避雷針になったので、ガザの人々が歓迎するわけがない。先週だけで、パレスチナ・イスラーム聖戦やアル・アクサ殉教者旅団など、ハマスやその他の武装グループがガザ回廊に入っているイスラエル軍に半ダース以上のロケット弾や迫撃砲弾を浴びせた。
しかし、いったん IDF が掃討したはずの北部地域にハマスが戻って軍に抵抗するようになったので、それまでイスラエル内では考えられない提案であったガザ占領が、今や公然と語られるようになった。
「占領意外に選択肢はない」と、パレスチナ自治区の政府活動コーディネーターに対するパレスチナ問題担当の元顧問のマイケル・ミルシュテインが言った。